

H28◆広陽っ子の体力・運動能力◆

＝ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(5年)

＝ 新体力テスト(5年以外)の結果より

【各学年の傾向】

1～3年生

- 1年生は、男女とも走力・筋力において全国平均を上回る結果でした。
2～3年生は、走力・筋力とも概ね全国平均並みの結果でした。

4年生

- 男女とも握力は全国平均を上回る結果でしたが、総じて走る活動を通じた体力向上策が急務であることがわかりました。

5年生

- 男子の握力と立ち幅跳び以外の種目は、男女とも全国平均をやや下回りました。中でも、俊敏性や持久力については、体育科の授業を中心にしながら、全校での日常的な取り組みを通して改善すべき課題であることがわかりました。
また、運動習慣調査において、運動に対する苦手意識を持っている児童が少なからず存在することもわかりました。

6年生

- 男女ともに、全国平均並みの結果でした。握力は全国を大きく上回りましたが、持久力や跳躍力はまだまだ鍛える必要があることがわかりました。



【学校全体の傾向】

*環境的要因として

- ・冬季の運動場所や運動方法が限定されます。
- ・除雪などの手伝いをしている子が多いです。
- ・移動手段として、自家用車を使用する家庭が多いです。

*各学年の結果より

○握力については、高い傾向です。

- 俊敏性は、昨年度高い傾向にありましたが、今年度は課題となる学年も見られました。今年度、俊敏性の高さにつながっていたドッチビーの遊びだけではない、様々な運動に取り組むことが見られたことが要因であると思います。

- シャトルランに見られる、全身持久力が課題となる学年が多く、跳躍力や筋持続力、柔軟性の課題も増えています。

- 男女とも、遊びの偏りや遊ぶ時間の少なさが見られ、家庭との連携を通じた取り組みが必要です。



【学校として取り組むこと】

今年度も、児童にいろいろな運動をする機会を設けるため、続広陽チャレンジスタジアムに取り組みました。今後も、引き続き実施し、様々な運動のチャンスを与えることが重要と考えます。

また、次に挙げることも検討していきます。

- 1 体育の授業での工夫
(1) 運動量を増やす工夫
(2) 体作りの運動の工夫
(3) 授業内容や展開の工夫
- 2 全校で体力向上に向けた取り組みを考え、日々の活動で行うようにする。
- 3 運動環境の整備(グラウンドや体育館の使用工夫)

